



夜明けは昨日と同じ様に訪れて、昨年と同じ普通の新年の様に年が明けます。例年なら祝詞があるところですが、今年はそれが憚れるような新年を迎えました。被災に遭った人が、黎明のわずかな光に希望を見いだすことが出来ることを祈る以外、苦渋を強いられている人達に向けて、今はどんな言葉も空虚に響きます。

現実から目をそむけるように空を見上げれば、天空にオリオンのペテルギースが輝きます。間もなく超新星爆発があるということで専門家の耳目をひいているのですが、640光年先にある星ですから、既に640年前に終焉を迎えていて、その光が地球に向かって進行中なのかもしれません。月よりもはるかに明るい星として2週間ほど上空に輝くそうですが、夜が訪れないとか、太陽が二つというのも鬱しい気がします。「かに星雲」の超新星爆発が、鎌倉時代の「明月記」に突然輝きを増した「客星」として記録されていました。

“後冷泉院・天喜二年四[五]月中旬(1054年5月20日～29日[6月19日～28日])以後の丑の時、客星觜・参の度に出づ。東方に見(あら)わる。天関星に幸(はい)す。大きき歳星の如し。”

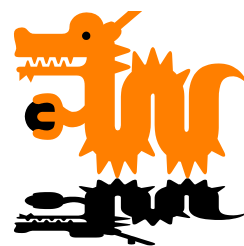
貞観の出来ごとも、明月記の記録のことも、天文学的時間の中では絶え間なく起きている日常の事象だと言えそうです。天から「奢るな!」「油断するな!」と諭されている様な形です。

さて、東北支部の駆動部にも更生時期が来て、来期に新たな日の出を迎えます。

新しい発想で、楽しく会を盛り上げて欲しいと思います。その中で特に望まれる事は、行事に女子会員がもう少し参加してくれればいいなあ、ということです。若い幹事諸兄には、行事等に工夫を凝らすことをお願いしたいところです。

今年も、会員の皆さんが「普通」の暮らしが出来ることをお祈りして、新年の挨拶といたします。

平成24年元旦 みつわ会東北支部
支部長 加藤徹三



「OB と呼ばれるようになって」 美馬五郎



23年春に、OB と呼ばれるようになって、みつわ会に入会させていただくことになりました。在職中には、一緒に仕事させていただきました支部会員の皆様には色々とお世話になりました。会員として、今後ともよろしくお付き合い願います。

3月11日、東日本大震災発生したことで、地震保険の立会査定業務を7月まで行っていましたので、リタイアは実質8月からでした。

当初はもう会社に行かなくて良いという安堵感と、これからずっとどう時間を潰していけばいいのかという不安感が交錯しましたが、とにかく、「日がな一日何することなく家に居る」という生活だけは絶対排除することを念頭に、プライベートのことで今までしたくても手をつけることが出来なかったことからやっていくということから新生活のスタートとしました。

途絶えていた友人とのメールでのやりとり、学生時代の先輩達との旅行、みつわ会ゴルフ等の交流のなかで、それぞれの生活ぶりを見聞きし、勉強とさせてもらいました。スタートから早6ヶ月経過しましたが、何とかやっつけいけそうだと思うようになりました。

若造ですが



佐藤賢一と申します。

昭和48年、期中入社になります。卒業後、ぶらぶらしている時に、当時の和田(周)支店長に拾っていただきました。北海道が在勤20年と一番長く、東北は仙台東(1年)、2課(2年)、いわき(4年)、火新SC(5年)となりますが、出身も南相馬(小高)、大学も仙台、仙台は小さい頃から憧れの街でしたので、自分にとって仙台に住むことは、ごく自然な流れでした。60歳の若造(?)ですが、よろしく願いいたします。

行事

	支 部	みちのく損保
平成24年1月14日(土)		麻雀
20日(金)		盛岡を偲ぶ会
24日(火)		新春セミナー
26日(木)	新年昼食会 12時「しゃぶ禅」	

新年昼食会の出席の連絡を1月20日(金)までに友彦さんをお願いします。

TEL022-379-5287 携帯090-4557-0623 mail satomo.39310@jcom.home.ne.jp

去る11月10日、森ミサ様(森甚三郎さんの奥様)がお亡くなりになりました。心からお悼み申し上げますと共に、ご冥福をお祈り申し上げます。

灯の下で



12月15日(木) 会場となった^{ぎんのあかり}「銀灯」で23年度東北支部忘年会がありました。さすがその昔ならした国分町、迷った人は一人として無く、定刻はるか前に着席し、首を長くして乾杯の音頭を待っていました。師走の街に灯が灯ります。

災いを祓って乾杯！
清和さん



ハイ、追加あり？
オーダー最終



「それ、俺の靴だべや。」



ネオンの下で何か良からぬ相談



未来に光があたりますように



平成23年12月



光のページェント

